

教 師 ノ ー ト

日付	2011年 7月24日
単元	モーセ・2
テーマ	主を信じる者は救われる
タイトル	青銅のへび
テキスト	民数記21:4-9
参照箇所	ヨハネ3:14-15、Ⅱ列王記18:4、Ⅰコリント10:9
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	イザヤ45:22
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下3巻1題13課 、 小上1巻2題1課

□導入

例:イスラエルの人々は、神さまを信頼しなかったので、40年間も荒野をさまようことになりましたね。みなさんのお父さんお母さんが生まれて今までで、だいたい40年くらいではないでしょうか。とっても長い年月ですね。「あの時、勇気を出してカナンに入っていれば、こんなに苦しい旅を続けなくてよかったのに・・・」「これからは、神さまを信じていこう・・・」と言いながら歩いたかもしれませんね。テントを張って休みながら、荒野の旅を続けました。

☞先週のテキスト(14章)から、今週のテキストまで、たくさんの重要なできごとがあります。安息日にたきぎを集めた人の死刑(15:32-36)、コラたちの反逆(16:1-35)、つぶやいた民への神罰(16:36-17:13)、ミリヤムの死(20:1)、メリバの水におけるモーセとアロンの罪(20:2-13)、アロンの死(20:22-29)など。よく読んで、背景を理解しておきましょう。

□ポイント1 イスラエルの人々は、神さまとモーセに逆りました(4-6節)

イスラエルの民は、荒野を進んでいました。苦しい日が何日も続きました。荒野を歩くだけでも、人々は疲れていたでしょう。さらに、アロンの死という悲しいできごとや、戦争もありました。いつまでたっても、目的地につけないのは、自分たちのせいでしたが、だんだんイライラがたまってきました。そして、とうとう我慢ができなくなり、モーセに逆らって、文句を言いました。「なぜ、おいしい食べ物や飲み水がたくさんあったエジプトから、私たちを連れ出したのですか!? こんな荒野で苦しんで死ぬのはイヤだ。」また前と同じようにつぶやいてしまいました。それどころか、神さまが与えてくださったマナのことまで文句を言いました。「もう、マナには飽きてしまった。こんなみじめな食事だけで、やってられるか!」神さまが与えてくださっているマナを感謝することを忘れて、「みじめな食物」と言ってバカにし、つぶやくとは何ということでしょう。

そんなイスラエルの民に、神さまは、直ちに罰をお下しになりました。恐ろしい毒へびを送られたのです。へびは、あちらこちらに現れ、たくさんの人々に噛み付きました。「燃えるへび」というのは、噛まれたとき、燃えるように痛いという意味かもしれません。また、その毒で、噛まれた人は、体中が火で焼かれるような熱で苦しくなるのかもしれません。いずれにしても、たいへん強い毒をもったへびでした。それで、大勢の人が死んでしまいました。

☞これまでは、罰を下す前に、神さまはモーセに語りかけてくださいました。しかし、今回は直ちにへびを送られました。

□ポイント2 イスラエルの人々は罪を認め、助けを求めました(7)

たいへんなことになりました。噛まれた人は、苦しんで、どんどん死んでいきます。人々は、モーセのところに来て、助けを求めて言いました。「私たちは、罪を犯してしまいました。神さまとあなたに文句を言

ってしまいました。反省しています。どうか、このへびを私たちから取り去ってくださるように、神さまにいのってください。」

モーセは民のために祈りました。このときモーセがどんな気持ちだったかは、書いてありません。いつも同じ失敗を繰り返す民を見て、どう思ったでしょうか。民は、罪を犯したことを悔い改めました。しかし本当は、罰を見てはじめて気づくのではなく、自分から悔い改めるべきです。モーセはすぐに神さまに祈りました。

□ポイント3 青銅のへびを見上げた人は救われました(8-9)

神さまは、すぐに祈りにこたえてくださいました。「あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけなさい。へびに噛まれた人はすべて、それを見上げれば、生きます。」モーセは、神さまの言うとおりに、青銅でへびの形を造りました。そして、それを旗ざおの上につけて、みんなに見えるように、高くかけました。

なんと不思議なことでしょう！へびに噛まれて苦しんでいる人でも、助けを求めてそのへびを見上げると、治りました。青銅で作ったへびを見上げるだけで、癒されたのです。神さまは、あわれみ深く、なんでもできるお方です。

🍷 青銅＝銅と錫(すず)との合金。銅像はふつう青銅で作られます。

□結論 青銅のへびを見上げた人は、罪の罰の死から救われました

私たちは、ただ信仰をもって、十字架のイエスさまを見上げることによって救われます。へびに噛まれて死ぬことは、神さまに逆らった罪への罰でした。しかし、旗ざおに上げられたへびを見上げると、その罪の罰としての死から救われました。旧約聖書には、このようにイエスさまのことを、あらかじめあらわしているところ(予表)があります(過越を思い出しましょう)。イエスさまご自身も、ヨハネ福音書3章16節の大切なみことばの前に、この青銅のへびの話がされました。イスラエルの民は、「へびを取り去ってください」と願ったのに、神さまは青銅のへびを見上げるという方法で民を救われました。イエスさまを見上げて救われることは、神さまの方法なのです。

※青銅のへびに救いと癒しのチカラがあったわけではありません。へびを偶像化したり、「金の子牛」と混同しないように注意しましょう。民を死から救い、毒を癒した力は、金属で作った蛇ではなく、神さまご自身にあるのです。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例①イエスさまを見上げて救われよう！

神さまは、私たちを愛してくださっています。私たちは、罪を犯してしまいます。その報いは死です。でも、神さまは、だれの命も滅びてほしくない、そのために、イエスさまを身代わりとして、十字架にかけてくださいました。私たちは、イエスさまを信仰をもって見上げるだけで、罪から救われるのです。心も癒されます。これ以外に方法はないのです。神さまは、あなたのことを、そのひとり子の命を与えるほどに大切に思って下さっているのです。

例②いつも与えられている「マナ＝みことば」に感謝しよう。

イスラエルの民にマナが与えられていたように、みなさんには、「命のパン」であるみことばがいつも与えられています。いつも感謝して食べていますか？「もう飽きた」とか「つまらない」と文句や不満を言っていないですか？みことばが与えられていることに感謝しよう。礼拝のメッセージやディボーションで、喜んで命のパンを食べよう。よい地に落ちた種は、100倍祝福されます！